

## 見積合せにおけるくじの方法について

### 1 くじの方法の概略

くじを実施することとなった場合は、まず、くじの対象者の個別のくじ番号を決定する。

次に、くじの当籤番号を決定し、この2つの番号が一致した者を当籤とする。

### 2 くじの対象者のくじ番号の決定方法

くじの対象者の個別のくじ番号は、くじの対象者の電話番号（入札参加資格審査申請書記載の電話番号）の数字を比較して決定する。

数字の比較は、下の桁から一つずつ行い、数字の最も小さい者に0、次に小さい者に1、さらにその次に小さい者に2と順にくじ番号を付与する。

○例

くじ対象者	電話番号										くじ番号
A社	0	8	5	5	2	3	2	1	<b>0</b>	1	<b>0</b>
B社	0	8	5	5	2	8	7	8	3	1	<b>2</b>
C社	0	8	5	5	2	2	<b>6</b>	8	3	1	<b>1</b>

注：左の強調している箇所  
に数字に差が生じている。

### 3 くじの当籤番号の決定方法

案件番号、見積依頼日、見積書開封日、物品等番号（1 案件中で複数の見積物品がある場合を想定）と同額のくじ対象者の数を利用し、算定式に当てはめ、計算後余った数値を当籤番号とする。

【算定式例】

(案件番号の下3桁+見積依頼日の下4桁+見積書開封日の下4桁+物品等番号の下2桁) ÷ くじ対象者数

○例

項目	値	積算用数値	計算経過
案件番号	25013	013	(a) 下3桁を使用
見積依頼日	令和7年6月30日	0630	(b) yyyyymmddのうちmmddを使用
見積書開封日	令和7年7月9日	0709	(c) yyyyymmddのうちmmddを使用
物品等番号	23	23	(d) ※物品等番号がないときは、0又は使用しない。
乱数値(0~999)		852	(e) 関数設定 その都度乱数を発生させる
総和(合計)		2227	(f: a+b+c+d+e)
合計		227	下3桁使用
くじ対象者		3	(g)
商		75	(h: e/f)
余り		<b>2</b>	(h) ※当籤番号

注 案件番号、見積依頼日、見積書開封日及び物品等番号(0)が全て同じ、かつ同額の事業者も全て同じときは計算上余りが固定され、結果的に1者に限られてしまい、公平

性が担保できなくなるため、無作為な任意の値を加算することにより、公平性を担保する。

#### **4 当籤者の決定**

上記3の当籤番号と、上記2のくじ番号が一致した者を当籤者とする。(例では、B社が当籤者となる。)